

なりたい自分に近づくチャンス
将来につながる留学に向けて

未来を見据えた、新・大学連携 人材育成プログラムが開講！

== 県内大学や県内企業の力を結集した、生きた授業 ==

WHAT? 大学連携プログラムってなに？

県の支援を受け、平成 24 年度からスタートした、
広島県内の大学や企業が連携して作った、新しい実践型教育プログラム。
県内外の企業や著名教授、講師を招くほか、海外研修を実施するプログラムもある。
大学間での単位互換制度もあるので安心。

広島女学院大学では、留学支援講座を実施。

※本学以外でも広島県内大学で次のプログラムを実施。() は代表校。

- ①グローバルマネジメント（広島大学） ②グローバル人材育成講座（安田女子大学）
- ③産業分野におけるグローバル人材育成（近畿大学） ④企業経営とイノベーション（県立広島大学）

HOW? どのような講義があるの？

広島女学院大学の留学支援講座では、15回の講義、フィールドワーク、最後にプレゼンテーションを行う。

- ・ 外国人講師の英語による講義
- ・ 日本文化、伝統文化の理解～フィールドワーク（宮島）～
- ・ 音楽を通じた日本文化・欧米文化の理解
- ・ 保健医療分野における世界の問題及び日本の役割
- ・ 世界における宗教の位置づけの理解
- ・ 渡部陽一氏による特別講義
- ・ 英語でのディスカッション・プレゼンテーション

※講義内容詳細は別紙参照

Where? どこで受講できるの？

主に広島女学院大学で実施。

フィールドワークは宮島。

WHO? 誰が受講できるの？

広島県内の大学に通う大学生・高校生も OK!

もちろん、無料!

※他大学生の場合、教育ネットワーク中国の単位互換制度の利用により受講可能。

REUNION～再会の集い～

【目的】 講座終了後に留学した受講生のプレゼンテーション&クリスマスパーティーを催し、絆を深める。

【実施期間】 講義は平成 24 年 5 月～7 月 Reunion は平成 24 年 12 月

◇ 私の留学レポート

～NZ、カナダ、タイ、インド～

春から夏にかけて全 15 回の講義を終えた留学支援講座。

講座が終了して半年後の 12 月、

留学体験を終えた受講生数名によるプレゼンテーションが行われた。



3ヶ月のニュージーランド留学を終えた小河原萌愛さん。

スライドを使いながら、ニュージーランドの文化や生活習慣、

自身の1日の生活の流れを説明した。

また、旅行で訪れたバンジージャンプの体験動画を流すシーンでは、

受講生から拍手が沸き起こるなど、終始アットホームな発表となった。



続いて、杉井友香さんはカナダへ2週間ホームステイをしたときのことを話した。

ステイ先には自分のほか3名ほど外国から来ている学生が泊まっており、

互いに楽しんでコミュニケーションがとれたそう。

食事内容など文化の違いに直面し、非常に驚いたこともあったが、

講義で異文化について学んでいたこともあり、

恐れることなく楽しめたと改めて今回のプログラム受講の素晴らしさを述べた。



グループ研究としてタイを訪れ、人身売買についてのプレゼンテーションを行う受講生もいた。

実際に人身売買の体験者に話を聞き、その先が日本であったことなど、日本人でありながら知らない現実直面し、大変衝撃を受けたが、この事実をより多くの人に伝えていきたいとフィールドワークを通して強く思ったそう。



インドへのフィールドワークを行ったグループは、

「子どもたちの笑顔を守るために」と題し、貧富の差、またゴミ問題について話した。

ゴミ問題では国が違うからということではなく、

全ての人が地球市民として意識すること。

そして伝えていくことの大切さを知ったそう。

プレゼンテーションを行った受講生全員が

全15回のプログラムを通して、

海外へ旅立つ仲間作りができ、大変貴重な時間になったこと、

また、留学時に講座内容が活かされたと述べ、

プログラム（次年度）の更なる発展を願っていた。



プレゼンテーション終了後は場所を移動し、簡単なクリスマスパーティーが開かれた。

「元気だった?」「久しぶり」と、受講生は再会の喜びをかみしめていた。久しぶりの再会を喜ぶ受講生。



着物姿の受講生も。

<Interview>

広島女学院大学 学長

長尾ひろみ さん



——全ての講義を終えて、いかがでしたか。

良い流れで全 15 回のカリキュラムを組むことができ、大変満足しています。

カリキュラムでは二点を軸に考えました。

一つは、日本人として海外に出て行くときに、ただ出て行くわけではなく日本のことをよく知ること、特に広島のことをきちんと学び、出て行ってほしいと思っていました。

二つめは講義では英語を極力取り入れようと思いました。結果、全講義の半分はオールイングリッシュでの講義となりました。

——カリキュラムの流れで意識した点は。

約 40 名の受講生の中には高校 1 年生から大学 4 年生までいましたので、年齢差を心配していました。そのため初回は年齢差を乗り越え、語り合える仲間になるための時間を取りました。私たちの心配をよそに、受講生は年の差を、弟、姉など家族的な感覚で接し、大変上手にコミュニケーションがとれていたように思います。続いて、第 3～5 回では広島歴史、特に世界遺産でもある宮島、平和記念公園の歴史などをしっかりと学び、伝統文化である雅楽やキリスト教音楽にも触れました。中盤では、世界の経済状況や公衆衛生、環境の問題、世界における宗教の位置づけも勉強しました。ディスカッションを挟み、締めくくりは平和文化と戦争文化の話、広島から何を発信するべきかを話しました。コミュニケーションから始まり、平和学習で終わる、この流れはベストであったと思います。

講義最後はグループごとに、一番印象に残ったテーマを自分たちなりにオールイングリッシュで表現する場を設けました。講義をどう消化していったのか、劇をするグループもあり、大変楽しい時間となりました。

——プログラムで工夫した点は。

授業のアウトラインを全て翻訳したバイリンガルの教材を用意しました。そのファイル一つ持って外国に行けば、日本文化についてきちんと英語で説明できるというマテリアルです。高校生にとってはある意味、大学の授業がどんなものか分かったのではと思います。そして広島女学院は女子学生のみしかいませんが、今回は男子学生も受講生として数名来られましたので、男女混合授業も新鮮で良かったと思います。

多様な世界の経済状況をつたえる講義は少し学生には難しかったかもしれませんが、あんまり学んだことのない宗教の講義は楽しかったという声を多く聞きました。語学力（英語）もかなりついたことでしょう。

——来年度の期待は。

初年度にして、大変クオリティの高いカリキュラムが組めましたので満足しています。このカリキュラムに上乘せする形で、より良い教材を作っていければと思います。

広島女学院大学

コートニー ロレンス常勤講師



——広島県が推奨する大学連携プログラムを、どう感じますか。

県が補助金を出してこのように若い子の世界観を広げようという試みは、数ヶ国で生活した私の経験から見ても稀なこと（チャンス）だと思います。とてもとても素晴らしいと思います。ですから、本当に多くの学生、若い子に受講してもらい、講座を活かし、海外に飛び出していてもらいたいです。

——今回の留学支援講座はいかがでしたか。

若い子たちがいろいろなことを始めるに当たり、準備のプログラムとしては非常に良い内容だったと思います。異文化交流の心構えができ、日本人として海外に出て行ったときに日本をきちんと伝えられる内容でしたので、留学時にはとても役立つと思います。自分の中できちんと日本文化を表現できることは海外に行ったときに大変重要です。実際、受講生から、海外に行ったときに恐怖感がなかったと言われました。これは、このプログラムを経験したことで海外に気負うことなく楽に行くことができ、自信にもつながったのではないかと思います。

もし、今、私が学生でしたら、絶対に受けたいプログラムです。残念ながら、当時はありませんでしたので、今の学生が羨ましいです。少しでも興味があれば、来年度ぜひ受講を薦めます。

<Voice 受講生の声>

池田梨沙さん（広島女学院大学国際教養学部1年）



チューターの先生に誘われたことがきっかけで、このプログラムを知りました。

最初は受講生の中に高校生もいたので驚きましたが、グループごとに分かれて話し合う機会もあり、年齢に関係なくいろいろな人とコミュニケーションをとることができて良かったと思います。プログラム自体は毎回、講師やテーマが変わるので、様々な視点から日本、海外を考えられて興味深く思いましたし、留学に際し、心の準備、知識の準備がしっかりとでき素晴らしい内容だったと思います。また、来年1年間、アメリカに交換留学として行くことが決まりました。もともと留学を希望していたのですが、今回の講座を通して、改めてもっと海外を見たいと強く思いました。後輩にもぜひ薦めたいプログラムです！

杉井友香さん（安田女子高校2年）



講座のことは学校の先生に教えてもらいました。もともと留学に興味があったので、両親に講座のことを話すとすぐに賛成してくれたので、参加を決めました。講義では日本（広島）、海外について、改めてきちんと学ぶことができました。数週間カナダに留学したときにはその内容が大変役立ち、また日本についてきちんと英語で話せたので良かったと思います。もともと英語でコミュニケーションをとることが苦手だったのですが、今回この講座を受けて留学した際にとっても楽しかったので、コミュニケーションをとることが楽しくなり、自信にもなりました。

ハイケル・マーリーさん（広島女学院大学国際教養学部1年）



特に印象に残っている講義は、「人身売買について」です。人身売買という言葉は知っていましたが、講義より深く知ることができ、その現実にショックも大きかったため、何かしらのアクションを起こしたいと思うようになりました。講義終了後、タイに行き、実体験をされた方にインタビューをして想像以上の内容に驚きましたが、さらに意識が高まったのも事実です。この講義を受けることができ、本当に満足しているので、友人にもぜひ薦めたいと思います。

江口真央さん（近畿大学附属東広島高校3年）



NHKの朝のニュースを見て興味がわき、無料で受講できる点も良かったので、決めました。男子高校生ということで最初は少し孤独ではありましたが、徐々に打ち解けることもできました。興味深かった講義はフィールドワーク、「宮島」での授業です。これまで、宮島には数回行ったことがありましたが、普通に観光していただけでした。宮島でのプログラムでは普段見られない場所にも入らせてもらい、新しい見識を広げられたのは収穫があったと思います。将来はイギリスに行ってみたいと思っています。